

会報

No. 106

令和4(2022)年3月15日

<https://www.library.pref.kyoto.jp/k-lib/council>

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町

京都府立図書館内

TEL (075) 762-4655

<目次>

1面

・ウィズコロナ時代における情報発信
公式YouTubeチャンネル開設！
(京都市醍醐中央図書館)

2面/3面

・実務研修会実施報告
(北部/中部/南部)
・京田辺市立中央図書館の他課との連携について
(京田辺市立中央図書館)

4面

・京丹波町の新庁舎に交流ラウンジ「こだち」図書コーナーがオープンしました
(京丹波町教育委員会社会教育課)

ウィズコロナ時代における情報発信
公式YouTube
チャンネル開設！
京都市醍醐中央図書館 司書 迫坪 千雅

京都市醍醐中央図書館では、小学校に
出向いてのブックトークをはじめ読み聞
かせ講座や図書館見学・就労体験など積
極的に地域の学校と連携を進め、とりわ
けブックトークは、例年近隣の五校で
二十数回行うなど力を入れてきました。
ところが新型コロナウイルス感染症が拡
大し、令和二年三月以降は予定していた
ブックトークは全て中止、他の連携事業
も依頼が激減しました。

コロナで考えた 新しい情報発信

そこで、コロナ禍における情報発信の
ひとつとして令和三年二月に開設したの
が、当館公式キャラクター「よもうちゃ
ん」にちなんで「醍醐中央図書館公式
YouTubeよもうちゃんねる」です。
開設当初は職員オリジナルの人形劇や図
書館案内を配信。図書館案内ではクイズ
を出題し、来館して答えてくれた子ども
たちに景品をプレゼントするなど、興味
をもっていただけるよう工夫しました。
しかし、図書館としてはやはり本の魅
力を伝えたいという思いが強く、今年度か
らはブックトークの動画配信をスタート。
制作に当たっては①学校の授業として
児童に視聴してもらうなどGIGA端末

の活用を視野に入れる②教職員に見ても
らい今後のブックトーク依頼に繋げる③
ブックトーク未経験の司書の研修に活か
す等、目標を明確にしているから作業を開始
しました。

著作権者の協力が必要

不特定多数に向けた配信ですから、資
料を紹介するのに著作権者の許諾が必要
です。先行する他府県の図書館からもご
教示いただき、出版社に申請。回答は、
「挿絵は二〜三ページのみ」「配信したら
連絡を」「出典を明記」などの条件こそ
ありましたが、好意的にご対応いただき
ました。中には作者に連絡をとってくだ
さり、本文朗読の許可をいただいたケー
スもあり、大変感謝しています。

次はいよいよ撮影開始。カウンター業
務の妨げにならないよう、最小限の人員
にて短時間で行います。動画の編集は全
て無料のソフトを使用し、アクセシビリ
ティを考慮して字幕を付けました。当館
には動画作成・配信の経験者はおらず全
て手探りの中、動画に差し込むスーパ
ーや紹介した本のタイトル、静止画面のイ
ラストの作成など、若手職員が活躍して
くれました。

こうして夏休み前には、読書感想文コ
ンクールの課題図書を中心にしたブック
トーク『虫は好き？嫌い？』『つながって
いるよ』や自由研究の参考になる『よも
うちゃんの実験☆工作図書館 潜る金
魚』の配信が実現しました。

次は広報です。ポスターを作成し、京



よもうちゃんねる

都府図書館等連絡協議会加盟の府内の各
図書館にも掲示を依頼。近隣の小学校に
は校長会で説明時間をいただくなど情報
提供に努めました。新聞社にも取材を依
頼し、二紙(計四回)に掲載いただいで
います。

公式チャンネルを様々な活用

その後もブックトーク『おいしいもの
のつくりかた』『京の都へタイムトリッ
プ!』などの配信に加え、新たに『ピ
リオバトル 醍醐味本をさがせ!』を配
信。コロナ禍以前は、毎年市民参加のピ
リオバトル大会を開催していましたが、
動画配信では三人の司書が熱戦を繰り広
げました。この他、高齢者施設で働く方
を対象とした「紙芝居の読み方と図書館
資料活用術」講座は、対面での実施に加
え、講座内容を限定配信。講座の要点を
まとめた動画を、事前申込者にURLを
お伝えして視聴してもらい、来館できな
い方にも好評を博しました。
児童向け事業は、子どもの顔を見なが
ら対面で行うことが、とても重要だと考

えます。しかし、コロナ禍ではそれもままならず、図書館も状況に応じた取組が求められてきました。非接触型サービスとしてのYouTube動画配信はその中での工夫の一つです。肝心なのは図書館の歩みを止めないこと。そのためにもオンラインでの情報発信の道筋をひとつ作れたことはよかったですと思っています。「よもうちゃんねる」ぜひご覧ください。

実務研修会実施報告

◎北部会場

「これからの図書館の在り方

」課題解決型サービスについて」

日時 令和三年十一月十二日(金)

場所 宮津市福祉・教育総合プラザ

及びオンライン配信

講師 常世田 良氏

(立命館大学教授)

◎中部会場

「情報リテラシーの鍛え方」

日時 令和三年十二月二日(木)

場所 オンライン配信

講師 佐々木 美緒氏

(京都精華大学准教授)

◎南部会場

「響く！届く！本紹介を考える」

日時 令和四年一月十九日(水)

場所 精華町立図書館 集会室

講師 大林 正智氏

(豊橋市文化・スポーツ部まちなか図書館

日本図書館協会図書紹介事業委員会委員)

北部研修参加報告

宮津市立図書館 藤原 史奈

今年度の北部研修は、浦安市立中央図書館で館長のご経験もある立命館大学教授の常世田良氏を講師にお招きし「これからの図書館の在り方」課題解決型サービスについて」をテーマにご講演いただきました。昨年度は、新型コロナウイルスの影響で急遽中止となったため、一年越しの開催となりました。

公立図書館は、本を貸し出す場所、癒しの空間、幼児と母親・子供・高齢者が多く利用するといったイメージが強くありますが、本を貸すことはあくまで「手段」であり「目的」つまり本質は「情報提供の場」であるという話には納得させられました。近年、トップダウン型の社会から自立した自己責任型の社会へ移り変わっていく中で、情報収集能力が重要となっており、高度な情報収集ができる図書館の必要性が高まってきていると考えられています。

今回の講演の中で特に印象に残ったのが、図書館は「ワンストップ窓口」であるという言葉です。市役所等で行われている相談窓口は、ある分野に特化した問題にしか対応できないことが多いですが、我々が抱える問題や課題は様々な原因が複合化して起こるため、特化した情報だけでは解決ができないこともありま

す。それらを解決する総合窓口になることができるのです。この考え方に初めて触れて、私の中で自問することがあった図書館の役割とは何かが見えてきたように感じると共に、図書館の情報提供の場としての価値を更に感じました。

また、技術はある一定レベルを超える普通の人が対応できなくなり、使いこなせなくなる、情報検索についても同じだというお話もありました。誰でもインターネットを通じて簡単に情報を手に入られる時代になりましたが、ネット上の情報には不確かなものも多く、全てを網羅しているわけではありません。だからこそ、情報検索のプロとして司書がいます。利用者の方がどんな情報を求めているかを聞き出し、提供することが図書館員のホスピタリティであることが常に心に留めて、より確かで具体的な情報を提供できるように私自身ももっと知識を増やしたいと思いました。

今回の講演を通して、図書館の課題解決の場としての重要性を認識できました。利用者の方にも図書館が本を貸し出すだけの場所ではないことを知っていた

中部研修参加報告

京都府立京都学 歴彩館 大久保秋実

令和三年十二月二日に中部ブロック実



務研修会がオンラインで開催されました。今回は「情報リテラシーの鍛え方」をテーマに、京都精華大学国際文化化学部の佐々木美緒先生に講演いただきました。

研修に先だって、先生からの宿題である、新聞の記事や社説の読み比べを各自で行いました。社説を注意深く読むのは学生の時以来でしたが、普段読んでいない新聞も、他紙と比較することでそれぞれ切り口や論調の違いを実感しました。

講演では情報リテラシーについて私たちが理解しなければならないことや、図書館に求められる役割について幅広く伺いました。

現代の私たちは人間の処理能力をはるかに超える量の、日々更新される情報の中で生活しています。情報を正しく理解するために、情報リテラシーを鍛えるための三つのポイントを教えていただきました。

一つ目が、情報が発信される仕組みと特徴を理解する。

二つ目が、得た情報を読み解く。具体例として新聞の読み比べが紹介されました。情報を横断的に収集し、信頼できる情報源を持つ大切さも紹介されました。

三つ目が、自分で情報を表現してみよう。SNSを使えば誰でも情報発信ができ、情報についてより深く考え、反響から学ぶことができます。

この他にも、大学で学生さんと過ごされる先生ならではのお話が印象に残りました。二十代前半までの世代にとって、インターネットは生まれた時からあり、それらを無いものとして、本だけで調べようとすることも響かないということ。彼らにとつてネット上での情報発信は特別なことではないというお話です。いつの間にか自分の経験を基準にして若い人を見ていたなどと反省しました。

講演のまとめでは、情報社会における図書館を、人々の情報リテラシーを育む場であり、情報で溢れる社会に秩序をもたらす場所だと紹介されました。図書館で働く一人として、うれしく思うと同時に、より良いサービスの提供ができるよう日々努めていきたいと思いました。

今回、オンライン研修となることで参加者同士の交流が少なくなりました。これは残念でしたが、オンライン研修の良い面も見ることができました。それは、南部・北部といった広い地域からの参加に繋がったことです。今後も図書館員に役立つ研修の実施に加え、参加方法を選べる研修の増加にも期待したいと思います。

南部研修参加報告

長岡京市立図書館 玉岡 千尋

図書館は、行政として発信していく広報物や印刷物、館内掲示物等で本を紹介する機会が多い一方で、その紹介方法や文章を書く能力は担当者によって差があります。図書館職員全員が魅力的な本の紹介ができれば、地域の利用者が本を手に入る機会を増やすことができるのではないのでしょうか。

今回の研修では魅力的な本紹介について、昨年開館した愛知県豊橋市まちなか図書館に勤務されている大林正智氏にお話しいただきました。研修前半で図書館職員として本紹介をどのように捉えるかについて概要的な部分を、後半では具体的にどのような手法で地域住民におすすめ本をアピールしていくかを、事前に参加者が作成した本紹介の添削を行うという形で教えていただきました。

本を「読む」楽しみは、読んでいる最中だけではなく「読む」前後にも存在しています。読む前に本紹介を見て本を選ぶことや、読んだ後その本の感想を語り合うことなども本を「読む」楽しみのひとつというお話が印象的でした。ブックトークや読書会のような読んだ後の楽しみを図書館が提供することで、利用者の読書の楽しみが多角的に増え、利用者図書館に対するイメージが変革されていくことが、各館のブランディングに繋がります。

必ずしも本紹介のために本を読む必要はなく、通販サイトや書誌データ、資料の奥付やあらすじなど、本文以外のデータから情報を統合して文章を考えても良いというアドバイスを衝撃を受けました。図書館は必要とする人に本を貸す場であることはもちろん、情報を通じた新しい価値観との出会いの場でもあります。また、どんな本にも読者がいる、という理念のもと新たな本と人とを結ぶ媒介のひとつとして本紹介が機能するのが理想的だと思いました。

後半では参加者が前もって書いた本紹介文について講師から添削例を提示されつつ具体的なアドバイスをいただきました。皆さん、普段から本紹介の文章を書く機会が多いためか、とてもよく書けているという総評でした。その中でも、アイキャッチになるようなフレーズを盛り込む、書きたい内容を一つに絞るなど読む人の印象に残りやすくするテクニクを教わりました。

本紹介自体は図書館が日常的に行っている取り組みですが、こつこつ続ける



ことで図書館のイメージを大きく変える可能性ががあります。今回の研修を受け、魅力的な図書館づくりの方法について改めて考え直すきっかけになりました。

京田辺市立中央図書館の他課との連携について

京田辺市立中央図書館 釘本 容子

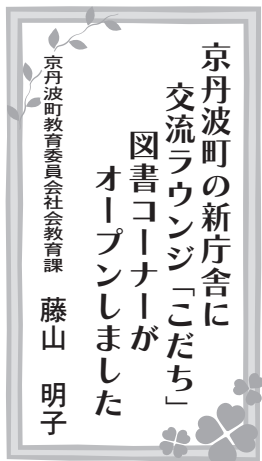
この二年間、すべての施設と同様に、感染症対策として、あらゆるサービスが限定され、行事も大人向けのものを開催するのが、精一杯というところでした。特に子ども向けの行事は、職員の中でも様々な意見があり、どのようにどのタイミングで再開すべきか模索しているという状態でした。子どもたちに直接サービスができない代わりに、家庭での読書支援をしようと考えていたところ、昨年度、児童デイサービス事業所から子育てに悩む母親たちに向けて、絵本の話をし

て欲しいという依頼がありました。打ち合わせの中で、絵本の読み方という話もあがあるが、大人の方のために読み聞かせをしてはどうかという案が挙がりました。当館では毎年「絵本読み聞かせ入門講座」を開催しているのですが、その時に講師が読み聞かせされると、受講生が本当に楽しく穏やかな表情になられるのを思いだしたのです。参加された方は、図書館の利用者でない方もいらつしやうたので不安もありましたが、楽しかったという感想を頂き、こういう形で大人の

方に子どもの本を知ってもらい、家庭に持って帰ってもらえると、コロナ禍でのサービスの方向性のヒントを得た感触を持ちました。そして今年度、女性交流支援ルームや子育て支援センターからも同様の依頼を頂きました。一度にお話できる人数は限られていますが、地道に拡げていければと考えています。

また、昨年度より高齢者支援課から、『世界アルツハイマー月間』に併せた関連図書の展示の依頼がありました。キーワードをもとに一緒に本を集めたのですが、POPや飾り付けは高齢者支援課の職員が工夫して行い、私たちも大変刺激を受けました。今年度は併設のギャラリーでも認知症の方の作品展を行う予定でしたが、緊急事態宣言のため残念ながら中止となってしまいました。

図書館側から積極的にアプローチしたわけではなく、他の部署から声を掛けていただいたというのが本当のところですが、普段交流のなかった職員と話し合うことで、市役所の中での図書館の存在を少しずつでもアピールするきっかけになったのではないかと感じています。



令和三年十一月一日、新庁舎の交流

ラウンジ「こだち」にブック&カフェがオープンしました。

カフェでは美味しいスイーツやコーヒー、軽食を楽しむことができ、図書コーナーにはサービスカウンターのほか、知識と特集棚、絵本棚、青春棚、雑誌棚、新聞架を設置しています。「町内図書室のアンテナショップ」と「みんなの「居間」」をコンセプトとして、セレクトショップのイメージで蔵書展示し、常に新しい提案ができるよう心がけています。蔵書はテーマ別で並べ、面展を織り交せて、分類にとられない自由な配置にしています。また、交流グッズとして囲碁・将棋・オセロ・トランプ・工作用品等も貸し出しています。

交流ラウンジは、カフェや図書カウンターのサービス時間外も、毎日午前八時から午後八時まで、自習や閲覧がいつでも誰でも自由にできます。フリーWiFiや電源を多数準備しており、読書はもとより、友達との会話や、打ち合わせ、待ち合わせ、仕事、自習、お迎え待ちなど、オープン以来たくさんの方々に、様々な目的でご利用いただいています。

隣接する会議室は利用



予約がない時には自習・閲覧室として開放しており、ブック&カフェは賑やかに、会議室は静かに、自然と使い分けていただけます。



この交流ラウンジは、京丹波町の新庁舎建設に際して行われた町民ワークショップから誕生しました。「町民が気軽に集える場所がほしい」「ブックカフェのようなところがある場所がほしい」「自習できる場所がほしい」などの皆さんの熱い声をもとに、図書館や図書室という枠組みを超え、図書と飲食のコラボについても慎重に検討を重ねて、今の形になりました。

図書の貸出は順調で、オープン月の令和三年十一月は、交流ラウンジだけで、町内図書室六室の貸出に匹敵する数の貸出があり、多くが新規利用だったことから町内図書室全体の月間貸出冊数が以前の約二倍となりました。同時に開始したWebでの予約、取り寄せリクエストの受付も少しずつ利用が増えており、新しい場所、新しいサービスが広く活用されていることに職員一同喜んでおります。

今後はさらに、新規に購入した移動図書館車を活用してニーズの掘り起こしと創出を進め、図書館の設置へとつなげて



いきたいと思えます。これからも京丹波町の図書室をよろしく願います。

交流ラウンジ開館時間
◎毎日午前八時半から午後八時 (年末年始を除く)

カフェ営業時間
◎月曜日から土曜日
午前九時から午後六時まで
(祝日・年末年始を除く)

図書サービス時間
◎火・水・金曜日
午前九時から午後七時まで
◎木・土・日曜日
午前九時から午後五時まで
(祝日・年末年始・蔵書整理日を除く)

会報はホームページに掲載
京都府図書館等連絡協議会のホームページに過去の会報も掲載しています。御利用ください。